

ドリンク剤

2011年
6月15日号
掲載

(株)廣貫堂
富山県滑川市小林 250-1



主力のサンリキン Z3000 II



▲廣貫堂では保健強壮剤ドリンク「サンリキンZ3000 II」の売り上げ1本につき1円を義援金として集計する「東日本大震災「絆」プロジェクト」(平成24年7月～25年3月)を立ち上げ、4月に合計300万円を岩手・宮城・福島に寄付した。



130年の歴史を感じさせる製品



ドリンク剤専用の滑川工場



貨物バラエティ

富山の薬売り——富山県の配剤家庭薬の興りは、300年ほど前、江戸城に登城していた富山藩主・前田正甫公が、腹痛を起こしたほかの藩主に胃腸薬「反魂丹」を与えることとたちまち回復したとい



廣貫堂の製品

う、江戸城腹痛事件」がきっかけだ。これが評判となり、医薬品産業は藩の一大事業として奨励され、行商により全国にその名を知ら

れるようになった。「売薬さん」が売る配置用医薬品は、使用した分だけ代金を受け取る

ドリンク剤でセルフケア

「先用後利」の独自のシステム。後にその売薬さんが集まって設立したのが(株)廣貫堂で、現在に至る130年の歴史の中で「六神丸」「熊膽園」「赤玉はら薬」

などベストセラーを生んだ。廣貫堂では配置用医薬品のほか、薬局やドラッグストア向け一般医薬品(ドリンク剤を含む)や医療用医薬品を製造・販売している。一般医薬品はOTC (Over the counter) 医薬品とも呼ばれ、処方箋なしで購入できる。中でもドリンク剤は滑川工場の最新鋭設備で製造され、「サンリキン」シリーズを始めとする自社ブランドのほか、ドラッグストアや量販店のPB商品も多数受託している。

「滑川工場には1000個入りを中心に3つの製造ラインがあります。夏は「葛根湯内服液」を増産するなどシーズンによって生産体制を調整します。廣貫堂のドリンク剤はスッキリして飲みやすい、と好評いただいています」と生産本部滑川工場の立村朗工場長。現在ラインを増設中で、秋には日産120万本の生産能力となる。

さて、廣貫堂で製造されるドリンク剤の7割は富山貨物駅発の鉄道コンテナで出荷されている。前年度出荷数を更新しながら、昨年は127コンテナで約3800個を発送。繁忙期には1日20個に上る。

グループ統括業務本部物流グループの沢田久二夫グループマネージャーは「だいたい1コンテナに2万本のドリンク剤を積載できます。2万本というのは数的にどの倉庫に納入するにもちょうどいいボリュームで、コンテナ輸送が伸びた一番の理由と言えるかもしれません」と話した。

タウリンやビタミンを配合した「サンリキン」シリーズに代表されるドリンク剤の効能は「滋養強壮」「肉疲労時の栄養補給」「虚弱体質の強化」。自分の身体は自分で守る時代。疲れた時には早めに1本…心掛けたいものである。



1コンテナに約2万本を積載する



滑川工場のライン

